

1. 目的

人口減少、少子高齢化が進む中、本市においても地域のつながりが希薄となってきている。そのため、地域の課題を地域で解決する力も低くなってきており、仕事の後継者不足や、空き家の増加、多世代交流の機会の減少など、様々な地域の課題に対応できなくなっている。行政としても人口減少による税収の低下等による、既存の行政サービスの維持も将来は困難になることが想定される。

そのような状況の中で、地域が将来に向かって維持・継続していくためには、地域が主体となり地域の課題を地域で解決していくため、地域のビジョン、地域の活動計画を決定し実践する。

2. 事業内容

《平成28年度～平成29年度》

▶宇城市全域へ展開するためのモデル地区を選定(松合地区)
▶地域全体の将来ビジョンと活動計画をつくるため、様々な世代、視点からの意見を募るための個別ヒアリング調査、ワークショップを実施。

▶地域内で共有するため、分かりやすいブックデザインの会議録、地域の将来ビジョン、地域活動を策定。

《平成30年度》

▶地域活動を実現するため、民間アドバイザーを派遣する。
▶地域活動を自分から取り組む団体を養成する。
▶地域での収入を得ることで、地域での雇用をつくる。
▶古民家カフェ、農家民泊、体験ツアーの受け入れ等を行う。

モデル地区:不知火町松合小学校区

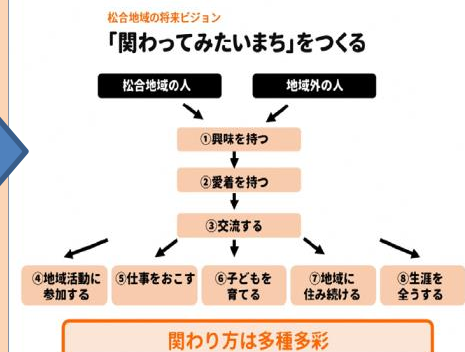
ワークショップ



情報発信



地域のビジョン策定



3. 予算額

地方創生推進交付金
4,100千円

4. 期待される効果

▶農家民泊の創出にて地域内外の交流を生み、新しい仕事を生み出す。ここで仕事をしたいと考える人を増やすことにつなげる。

▶古民家カフェ、えんがわカフェなどいろいろな世代交流の場を作り、地域で子どもを育て、ここで住み続けたいと考える人を増やすことにつなげる。